

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

時間速度と時代変化 (個人感覚を元に)

私事ですが、95年5月末を以て私は銀行を退職しました。退職してから15年余が過ぎた訳ですが、この15年は「もう15年も経ったのか」と云いたくなるほど短く感じる15年でした。それと比べると銀行員時代の22年は随分長く感じる22年間でした。24歳から46歳までの22年間と46歳から61歳までの15年間に、それほど時間速度の違いを感じるのには、おそらく3つの原因があります。

第一には、若い時と中高年時では受け止める時間速度感覚が異なるのだらうということです。人の一生を成長期・成熟期と衰退期に分けてもいいと思いますが、成長期と衰退期では時間の流れが違うのではないかと、多分それは人間の本質に関わる問題のような気がします。

第二には、その人固有の問題があります。私に即して云えば、銀行員時代は大組織に属し何の心配もせずおっとり過ごしていたのに対し、退職後は収入ゼロに陥る中でどう食べていけばいいかを常に心配しなければならなくなりました。おっとり時代とそうでない時代では当然時間感覚が違う、そんな気もします。

そして、第三は時代の変化です。振り返ってみると、この15年は、今思えば革命とも表しているような時代だったように思います。95年5月の退職時、私は携帯電話もPCも持っていませんでした。周囲の同僚も持っていなかったようでしたし、仕事で携帯は勿論、PCも使っている人はいませんでした。未だ手書き文章も少なくなかったのです。勿論、インターネットなんて見たことも触ったこともなかったのです。それがどうでしょう。この15年で仕事のやり方はすっかり変わってしまいました。

会社では社員1人ひとりにPCが与えられ常にネットに接続する環境となり、携帯電話は必携ツールとなっています。そうでなければ仕事にならなくなりました。そうした一握りの道具が仕事のやり方を激変させたのは、おそらく電話機登場以来ではないでしょうか。そして驚くのは、それら道具の高機能化の速度です。2、3年で古くなってしまうのはここ十数年の動きです。一方、家庭では子供までが携帯電話を持ち歩き、固定電話不

要の時代が近づいています。家庭にも複数台のPCが入り込み、膨大な量の文書、情報、音声そして映像が飛び交っています。その結果でしょう、映像物レンタル店や書店が徐々に姿を消し、高給を誇ったTV業界も広告収入減でリストラを開始しています。既にEコマースでは、BtoBが205兆円(13.7%)、BtoCは6.7兆円(2.1%、共に09年度経済産業省発表)と金額、シェアとも急速に拡大、事業環境も大きく変化しています。こんな時代に生きる私達にとって、受け止める時間速度は当然に変わっていくのかもしれない。

正直に云えば、私はこんな時代が好きになれません。私は、PCや携帯、あるいはネットを比較的上手く活用して仕事をしてきたように思います。それらがなかったとすれば多分今の自分はありません。それはそうですが、この大変化の時代は時間という面で私達を追い詰めているように感じるので。皆さんもそんな感じを受けないでしょうか。時折、携帯もPCもない世界に行ってしまうような欲求を覚えないでしょうか。

それは兎も角として、しかし、この変化は未だ始まったばかりです。15年という年月は単に変化の入口に立ったに過ぎないように思います。

多分、BtoBもBtoCも更に拡大していきます。その先に何が起こるか分かりませんが、分かっていることがあります。ダーウィンが云ったように「優れた種が生き残るのではなく、変化に対応する種が生き残る」ということです。その意味で、革命的变化の時代は、幕末から明治に至る時代を見るまでもなく、変化に対応できる者にとっては大チャンス時代です。

15年前にはヤフーは産声を上げたばかりで、楽天は影も形もありませんでした。その間、潰れるはずもなかった高名企業が幾つも姿を消しました。企業の浮き沈みはいつの時代にもありますが、それが高速で起こる時代となったのです。

最後に、経済産業省公表のデータを表にしてみました。私もいずれ評判のタブロイド型端末を持つようになるのでしょうか。未だ判りません。

	携帯普及率(世帯)	PC普及率(世帯)	ネット人口普及率
95年	10.6%	15.6%	9.2%/97年
00年	78.5%	58.0%	37.1%
10年	96.3%	87.2%	78.0%